



清

せい せい

政

77

地球環境保全への使命



神道政治連盟京都府本部

副本部長 大 垣 守 弘

日頃は京都府神道政治連にご理解ご協力を賜りますこと感謝申し上げます。

去る十月二十七日投開票の日程で、第五十回衆議院議員総選挙が行われました。ご承知の通り自由民主党は歴史的惨敗を喫し、安定的な保守政権与党を保てない危機に陥っております。自民党を推す政治団体である我々としても、忸怩たる思いがいたしますが、この際、政治改革をしつかりと断行して頂き、再び国民の信頼を取り戻し、明年の参議院選挙には再び圧倒的な過半数が得られるよう、党の再生を期待いたします。

さて、今年の秋は例年以上に気温の高い日々が続いており地球温暖化がますます加速してきている様相です。日本人は、地球と共に歩む工夫としてきたのが嘘のように、昨今は熱中症対策として必要ではあるものの、エアコンの過度な活用を促し、電力を使う事が美徳なような風潮が流れ、いよいよ世紀末が訪れようとしている気がしてなりません。CO₂削減を提唱しているにも拘らずこの有様です。

「失われた三十年」と言われて久しいですが、振り返ってみて如何でしょうか？この言葉は日本が持続的な経済成長を失った時代を指しますが、この時期は経済成長だけでなく多くのこと

が停滞しました。「ゆとり教育」に始まり、世界で稀に見る急速な「高齢化」や「労働人口の減少」、「残業規制」など労働時間の短縮や転職の促進、様々なハラスメントによる意欲低下、特に顕著なITやデジタル分野の停滞など多くの課題をもたらし、さらなる格差が拡大したのです。

この状況に対し今後必要となってくる取り組みは、

- ・ 国際競争力を高めるためのデジタル分野での技術革新や人材教育、企業のデジタル化推進の支援とスタートアップ企業の育成環境を整える
- ・ 柔軟な働き方とダイバーシティを重視した職場環境作りの拡大による労働市場の活性化
- ・ 地方経済の活性化、地域ごとの独自性を活かした活動を促進し持続的な発展を目指す
- ・ 学生だけでなく社会人のリスクリングなど次世代教育の充実、デジタル化に対応する新しいスキル・知識を身に着ける教育改革
- ・ 産業の成長を妨げる古い規制の見直し、イノベーションが生まれやすい環境を作る

などが課題となつてきます。将来に対する不安を解消し、日本社会の構造や価値観に変革をもたらすことが日本の持続的な成長に重要です。

そんな中、米国で話題になり日本で翻訳された「ネットワークパワー日本の台頭」（日本経済新聞社刊）と言う本が改めて注目されています。

内容は「失われた三十年」という常套句とは裏腹に、日本はポピュリズムの波にも吞まれず、国際的には「インド太平洋」構想をリードし、連携のダイナミクスを通じてより重大な役割を担う存在として地位を高めるに至っている。なぜ、このようなことが可能になったのか。外国人労働者問題に象徴される「開国」、小泉政権・安倍政権・岸田政権のマクロ政策や労働市場改革、農業改革などの経済面での変革、選挙制度改革、官邸機能の強化、ポピュリズムに蝕まれない民主制など国内政治の変化と特質、企業によるグローバル・サプライチェーンの構築。および、TPP協定での主導性の発揮をはじめ、中国の台頭に応じた地経学・地政学戦略の展開。そして、日本の復元力（レジリエンス）、社会的な安定性、変化に対応する柔軟性……。この本はバブル崩壊以降、現在に至る日本の変貌を変化と適応のストーリーとして描き出されています。

ます。

日本の政治経済における変化をビビッドに捉え、日本が展開する政治的手腕は、新たなリーダースHIPの背景を明らかにするとともに、人口減少、格差問題、中国・韓国との関係など、切迫する国内外の課題もわかり易く解説され、バブル崩壊以降現在に至る日本の変貌を変化と適応力の高さを評価しています。

話題は変わりますが、先日四百年続いている老舗企業の周年記念祝賀会にお招きいただきました。これだけ永きに渡り、継続するためには創業者が培った哲学や理念が非常に重要である事や、脈々と流れる考え方を聞き取って感銘を受けました。それは、言い尽くされた言葉ではありませんが「顧客第一主義」を基本として、太い信頼関係を築きお客様に喜んでもらうこと、そして製品やサービスの品質に強いこだわりを持ち妥協のない誠実な仕事の積み重ねが大切である。更に時代の流れに合わせた柔軟な適応力、「守るべきこと」と「変えるべきもの」を見極めるバランス感覚を持つなど、どのようなことにも通じる信念を感じました。

そして長期的な視点で社会をとらえ、次の世代にどのような形で引き継ぐかを大切に考え、培ってきた信念や価値感をしっかりと伝えること

とで、アイデンティティが継承されていること。また地域に根差し地元の方々を支えられているという意識が強く、地域社会への貢献を重視し、ともに発展することを使命と捉えた地域密着型の姿勢が長期の信頼関係を築いていることが由縁だと感じました。このように価値観が代々受け継がれることで時代を超えて愛され長い歴史を刻んでこられたのだと受け止めました。

この姿勢はどのような企業や団体にも当てはまることで、非常に大事な基本姿勢であり見習うべきことと今さらながら実感しました。

さらに今後必要なのは、気候変動や環境問題が深刻化する中で、私たちは環境への配慮を求められているということです。再生可能エネルギーの活用や生活の変革など、環境に優しい取り組みを積極的に行うことが期待されています。

このような時期だからこそ、私たちが一丸となつて未来に向けて前進することが大切です。皆様のご理解とご協力を賜りながら、共により良い社会を築いていきましょう。どうぞ引き続きご支援のほど、よろしく、お願い申し上げます。

「未来に向けての 保守の責任」



神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長
参議院議員 比例(全国) 区選出 有村 治子

■ やしまのくに、日本の島々

鎮守の杜をお守り頂き、日本人の心意気や感性を日々の言動でお示し下さっています。神道政治連盟京都府本部の皆さまには、いつも温かい友情やご支援を賜り本当に有難うございます。梶 道嗣 部長さまをはじめ皆様のお顔が目につかびます。

千三百年前の古事記にも記されるように、日本は古来、「八洲の国」すなわち、「多くの島々から成る国」と、語り継がれてきました。八島、八洲、大八洲、八十島……と、地域や時代によっ

て呼称は異なりますが、日本は多くの島々から成る海洋国家です。

皆さまにお育て頂きながら、「神道の精神を国政に、日本の心を政策に」と、政治活動を進めております私は、初当選以来、心して領土問題に取り組んできました。その一環で参議院自民党を代表し、国土をなす島について国会質問に立ちました。岸田内閣総理大臣(当時)が答弁に立たれた私の国会質問が契機となり、昨春、政府が三十五年ぶりに日本の島の数を数え直し、公表しました。

我が国の島の数は、従来六八五二島と公表されていましたが、このたび一万四一二五島と「更新」され、四十九の島があると言われてきた京都府には、実は百十一の島があることが公表されました。単純に言えば、京都府の島の数も、日本の島の数も、それぞれ「倍増」したことになります！

領土、領海、領空からなる我が国の領域を守ることは、我が国の平和と安全を守る大前提です。国土を成す島々を正確に測量し、把握する事は、国土保全の土台です。日本は、「海

の日」という祝日まで持つ海洋国家でもありません。我が国をとりまく海の安全を守る海上保安官や海上自衛官等、国家国民に対するたゆまない貢献を称えると共に、人知れず、正確な測量や地図表記を重ねる測量士の努力も心に刻みながら、引き続き海洋政策を担わせて頂きたいです。

■衆議院選挙大敗をうけて

神道政治連盟国会議員懇談会の会長を長く務められた安倍元総理の国葬から丁度2年となる本年九月二十七日に、自民党総裁選が行われ、私達の希望を背負った高市早苗候補が善戦するも、決選投票では石破総裁が選出されました。息つく暇もなく十月には石破総理による衆議院解散・総選挙、自民党の歴史的大敗となりました。「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」と言う格言通り、厳しい民意が示されたことを厳粛に受け留めます。と同時に、衆議院が少数与党に陥り、難しい局面にある現在、国政の混乱と日本の国際的地位の低下を最小限に食い止め、国民生活の安定を図る予算や政策を打ち出してい

かねばなりません。

現在私は、衆議院・参議院両院の議員による総会の議長を担う自民党両院議員総会会長を拜命しており、自民党両院議員懇談会を開催しました。石破茂総裁・森山裕幹事長・菅義偉副総裁はじめ、初当選された新人も含めて約二百三十名の両院議員が出席、三時間かけて、手が上がった五十名全員の発言を心して聞きました。十一月七日、厳しい衆議院選挙の直後です。当然ながら敗因の精緻な分析を求める声と共に、政治改革に向けての核心を突いた意見が続きました。

「自民党がリベラル政策を押し進めた所で、結局その層は、自民党には投票せず、むしろ『どんな時にも自民党』と書いてきて下さった岩盤保守層の底が抜けた」との認識を改めて強く致します。

「何だかんだ言っても、やっぱり自民党」と、どんな時代も共に歩んでくださった支持層が揺らいでいる現在、その原因を正確に把握することからしか、自民党の再生はありません。岩盤保守層と言われる同志の方々が、「自民党しかない」と支持下さってきた理由の核心は

やはり、国益・国民益を追求する真摯な姿勢と、ぶれずに目的を遂行する胆力、国民の公序良俗を代弁する良識を持っていたことにあると考えます。

来夏に執り行われる参議院議員選挙では一層厳しい逆風に立ち向かう戦いとなることが予想されますが、私に課せられた使命は、安易なイデオロギー対立やステレオタイプのレッテル貼りに巻き込まれることなく、世界に目を見開いて日本を丁寧語り、自ら主体的に行動を起こして国益を追求し、自民党が再び、歴史の評価に耐えうる判断を積み重ねるよう、影響力を行使していくことだと考えます。

神社会の皆様にお育て頂いておりますご厚情を胸に、自由民主党の公認候補の名に恥じないよう、日本の未来を真摯に見つめ、日本を慈しむ保守政治家として心して努めます。神道政治連盟京都府本部はじめ、神社会同志皆さまのご多幸とお宮のご隆昌をお祈り申し上げます。

感謝

令和四年度活動方針及び活動計画

令和六年六月二十六日開催

第一回代議員会にて承認

活動方針

畏くも天皇陛下には、本年元日に発生した能登半島地震のことを深く御憂慮遊ばされ、二ヶ月連続で現地を御訪問、犠牲となった人々に対するお悔やみと被害を受けた人々に対する暖かいおことばをかけられた。また、復旧復興に尽力した関係者にも労いのお気持ちを伝えられたという。常に国家と国民の安寧を祈られ被災地に寄せられる大御心に接し、改めて日本人に生まれてきたことの喜びと誇りを感じた次第である。

本年には悠仁親王殿下が成人を迎えられるが、現在、殿下以外に同世代以下の皇位継承有資格者はおられない。昨年十一月、自民党は漸く検討組織として党内に麻生太郎副総裁を会長とする『安定的な皇位継承の確保に関する懇談会』を立ち上げた。皇位継承が古来例外なく万世一系で継承されてきたことの重みと歴史的意義について、引き続き広く府民に啓発していきたい。

国会の憲法審査会で、緊急事態条項を新設することについては、条文案の検討段階にまで進んできている。武力行使や武力による威嚇を禁じた国際法上の大原則は、国連安全保障理事国であるロシアのウクライナへの軍事侵攻により崩壊したと言える。台湾有事が懸念される中、改めて『自分の国は自分で守る』という基本理念に立ち返り確固たる安全保障体制を構築することが肝要である。また、過度な個人の権利主張による健全な社会秩序や国民生活に不必要な混乱をもたらす

懸念のある夫婦別氏（姓）制や同性婚の容認に対しては、旧姓の通称使用が一般化してきたことや民法で定める婚姻が夫婦と子供を前提にしていることを広く府民に周知し、婚姻の意義啓発に努め、子供を産み育てることの大切さを周知していかなければならない。

本年度は久御山町・宇治市・笠置町・宇治田原町・精華町において首長・議会選挙が行われる。また、明年度に予定されている参議院・衆議院選挙の必勝に備え、本年度中に選挙対策本部を立ち上げる必要性があるものと考えられる。連綿と続く我が国の歴史と伝統に基づいた真の国家の再興を目指すには同志議員を一人でも多く、国・市・町政の場に送り出すことが大切である。

来年は終戦八十年という節目にあたり当会の英霊顕彰事業に掲げる恒例の三つの事業、『京都府戦没英霊追悼慰霊祭』『沖縄京都の塔慰霊参拝団による英霊追悼行事』『靖國神社における京都府出身戦没者慰霊祭の斎行』を本年度も厳粛に務めたい。目下の重要課題については自民党京都府連、京都府議会・京都市会神道議員連盟、日本会議・京都等、関係・友好諸団体との連携を一層に密にししながら、今一度、その使命と役割を再認識し、鋭意取り組んでいく所存である。

活動計画

推進事業

① 皇室の尊厳護持運動

・『皇室』の購読推進

・万世一系の皇室の伝統を護持するべく、男系男子孫による皇位継承有資格者の確保に向けた国民への理解と世論形成に鋭意取り組む。

②英霊顕彰並びに慰霊

・京都府戦没英霊追悼慰霊祭の斎行（十一月）

・沖繩京都の塔慰霊参拝団による英霊追悼行事の遂行（十二月）

・靖國神社における京都府出身戦没者慰霊祭の斎行（三月）

③会員大会の開催

・（六月）

④選挙に向けた取り組み

・久御山町長選挙（八月）・笠置町議会選挙（十月）

・宇治田原町議会選挙（十一月）・宇治市長選挙（十二月）

・宇治田原町長選挙（二月）・精華町議会選挙（五月）

・参議院選挙（七月）・衆議院選挙（十月）

⑤憲法改正に関わる情宣活動

・京都選挙区自民党衆参両議員、京都府議会・京都市会神道議員連盟

・日本会議・京都、美しい日本の憲法を作る京都府民の会と連携した

活動を展開する。（未定）

・憲法改正問題の正しい情報を得るための講演会の開催。（未定）

・京都の驍をかたる女性の会と連携し、女性の意識向上に向けての方

策に取り組む。

⑥夫婦別氏（姓）制等、家族制度変更問題への対応

・家族の絆を破壊する夫婦別氏（姓）制については要望者には通称使

用を促し、社会制度としては同氏制を維持して通称使用の拡大化で

対処するよう働きかける。

⑦会報『清政』の発行

（十二月、六月の年二回発行）

⑧機関紙「せいせい瓦版」の発行

（適宜）来る国民投票に向けての憲法改正の必要性を訴える。

⑨広報事業の充実

・時局に応じたホームページの更新。

・『清政』『せいせい瓦版』等、時局問題を敏速に掲載。会員世論の喚起を促す。

・京都の驍をかたる女性の会専用ホームページの随時更新。活動の充実を目指す。

⑩会員の増強

・支部との連携の下、組織拡充・拡大に努め、京都の驍をかたる女性の会とも連携、若い世代や女性を中心とした会員増強を図る。

・政策推進に資するため青年隊組織の充実を図り、問題発生時には必要に応じて早急に対処する。

・要に依りて早急に対処する。

⑪関係団体との協力

・京都府神社庁の関係団体をはじめ、英霊にこたえる会、日本会議

京都、美しい日本の憲法をつくる京都府民の会、京都の驍をかたる

女性の会、京都選挙区自民党衆参両議員、京都府議会・京都市

会両神道議員連盟との連携を深め、憲法改正運動への協力事業を

推進する。併せて京都府内の遺族会にもお声がけをし、京都府戦

没英霊追悼慰霊祭、靖國神社における京都府出身戦没者慰霊祭、

沖繩京都の塔慰霊参拝団への参列・参加を呼びかける。

・京都府議会・京都市会両神道議員連盟との懇談会の開催。

⑫自然災害等緊急時への対策と復興支援

・中央本部、近畿地区連絡協議会、京都選挙区衆参両議員、京都

府議会・京都市会両神道議員連盟と連携・参画し、早期復興に向け

て積極的に事業を展開する。

・常日頃から非常時緊急時における対応策を考え、関係機関と連

携し危機管理の徹底を期す。

・被災地の現状把握に努めるとともに、行政機関をはじめ関係諸

団体と連携して支援活動を展開する。

⑬コロナウイルスへの対応

・政府や自治体の取り組みを支援していく。

⑭その他

・必要と思われる諸策の陳情。



第37回 会員大会

第一部

▼式典▲

去る七月二十二日、リーガロイヤルホテル京都を会場とし、多数のご来賓を始め、会員等約一九〇名の関係者が出席して、第三十七回神道政治連盟京都府本部会員大会が、厳粛裡に開催された。

第一部式典は、稲本副幹事長の司会により進められ、先ず初めに国旗儀礼を行い、後藤副本部長より開会の辞が述べられ、神宮遙拝、国歌斉唱と続き、梶本部長が「教育勅語」を厳かに奉読した後、今崎副本部長の先導で綱領を唱和した。梶本部長の式辞では、先ず初めに酷暑の中、出席いただいた来賓各位及び会員関係者に謝意を述べ、先日行われた中京区の市会議員補欠選挙において見事加藤候補が復活当選されたことについて御礼の辞があった。

次に、令和五年度功績者表彰がおこなわれ、洛南支部藤森神社 小牧弘善責任役員と京都府神道青年会 北川真喜子前会長が表彰をお受けになられることとなり、お二方を代表し小牧氏が登壇し表彰状を受け取られた。
次に、来賓が紹介され、来賓を代表し神道政治連盟打田文博会長、京都府神社庁林秀俊副庁長、勝目康衆議院議員、京都府神道議員連盟近

とき…令和六年七月二十二日
ところ…リーガロイヤルホテル京都

藤永太郎会長、京都市会神道議員連盟寺田一博会長よりそれぞれ鄭重なる祝辞を頂いた。
祝電披露の後、藤森幹事長より会務報告がなされ、室川副本部長より、東海道新幹線の運休により、東京方面からお越しの方には大変ご苦労の上お越し頂いたことに謝意を述べ閉会の辞とし、国旗儀礼をもって、第一部式典の部を終了した。

第二部 ▼講演会▲

演題「日本の守りと憲法改正」

講師 参議院議員 比例代表（全国区）

有村治子 先生

【抄録】 本日は「国家、国柄、国民性」というテーマでお話しさせていただきました。

最近、マイクロソフトの影響で全世界的に飛行機の欠航が発生したが、これは現代社会が抱える本質的な課題の一例だと考えている。今世界は、猫も杓子もデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでおり、すべてのデー



々を効率的に集約し、規格を統一しようとしている。しかし、全国や世界で一元化された規格が進むこと

で、ある意味狙われやすくなり、一部がダウンするとその障害にすべてが影響されるといふ脆弱性を抱えることになる。世界が繋がって、世界が小さくなればなるほど、ある意味では脆弱で、サイバー攻撃を試みる組織や国家などから見ると、多様な意見を持つ民主国家は、政府が貶められるというリスクが高まる。日本社会においては、自然災害だけでなく、社会を脅かす政治的意図を持った存在が周囲にいる現実にも思いを馳せる必要があるだろう。

私が大切にしているのは、日本の価値や神楽の意義だ。神社が大事にされることは日本の価値だと思う。過去、現在、未来と綿々と続く時間軸の中で、私たちが最も影響力を行使できるのは「現在」であり、未来はその延長線上にある。過去の評価も重要だが、現在の行動が未来を形作る。現在と未来に対して強い影響力を背負い、過去の評価にも強い影響力を背負って

生きているのだと思う。先ほど「教育勅語」を、皆様と共に拝聴した。今や国会で「教育勅語」を大事にしているということが解ると、集中砲火を浴びるが、本来「教育勅語」が何をしてきたかというところ、まさに国民性の大事な真髄であり実行規範であったのだと思う。

来年の夏の参議院選挙に向けて、このような機会を与えて頂いたが、自民党が直面している信頼の毀損について大変申し訳なく思っている。政治の信頼回復に向けて、私自身も前線に立つ責任を感じている。結党七十年を迎える自由民主党は、戦後政治の中で公序良俗を求める国民の声を代弁「政治は国民のもの」とした立党精神に立ち帰り、国民政党の役割を果たすことが求められている。

来年は終戦八十周年であり、戦後日本が失ったものについて考える機会でもある。私は、二年前の安倍総理の国葬を通じて、戦争の結果として何を失ったのかを実感した。GHQの施策によって、日本の地理や歴史の教育が禁じられ、国民の公序良俗の感性が改変されてしまった。日本は戦争に負け、国家・国益・国ということを考える機会を奪われてしまった。このことが、日本の国益や国家意識の形成にどのように影響したかを考えるべきである。

一昨年、日本は初めて「国家安全保障戦略」

を見直し、そこで初めて「国力」ということを規定した。ここで、「国力」を五つの要素――経済力、外交力、防衛力、科学技術力、情報力――として定義した。これに加えて私は、バランスの取れた人口規模や、国民性をも含めた「国柄」という要素を挙げたいと思う。いざという時に、皆が国を守ろうとする国柄も大きな国力だと思う。国家が存在するからこそ、安全安心や未来の夢が共有されて行くのだと思う。

最後に安全の確保について、日本国憲法には、我が国が独立主権国家であり続ける定義が欠けている。そういう意味では、私たち日本人の生存を確かにするためにも、安全を確保する手段として自衛隊を持つ、そして、国家がなすべき最大の任務は独立主権国家としての国と、国民の安全と主権を確保すること、これを是非とも憲法に書き込みたい。そして、主権者たる国民の皆様が、それを支持するのか支持しないのか、初めて最高の主権の発動をしていた、だくという機会を一刻も早く作っていくのが政治の務めだと思っている。

来年の選挙は厳しい戦いになると理解しているが、国民の声を代弁する立場として、必ず勝たなければならない。このような機会をいただき、感謝申し上げます。以上で私の報告とさせていただきます。 (今崎副幹事長)



京都府神道議員連盟 京都市会神道議員連盟

会員の ご紹介



京都府議会
中村正孝 先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、日本の伝統と国柄に基づき国土と国民を守り、家族の絆を大切にできる社会の実現のためにご尽力いただいていることに、厚く御礼を申し上げます。

私の選挙区である亀岡市は既に縄文時代には人々の暮らしが営まれ、律令制度下では丹波国の中心地でもありました。四方を山に囲まれた亀岡を象徴する風景である丹波霧によって作り出される雲海は『延喜式』にも名前の記載がある由緒正しい鍬山神社に伝わる「矢田八景」の一つにも数えられている幻想的・神秘的な光景であり、まさに大国主命が神々と共に保津峡を開き、泥湖であった丹波を豊かな農地に変えたという伝説に相応しい自然の恵みとも言えます。

また、亀岡には鎌倉幕府滅亡のきつかけとなる六波羅探題攻めを行う前に足利尊氏が戦勝祈願の願文と鏑矢を奉納した篠村八幡宮、明智光秀が本能寺への進軍の前に何度もくじを引いたと伝わる愛宕神社と、どちらも日本史を大きく動かす出来事のはじまりと関わりの深い神社もございます。そして今現在我々を取り巻く社会は大きな転換点を迎えており、日本は国内的にも国際的にも、解決のために非常に難しい選択を迫られています。しかしその中でも日本の伝統と文化を守り、皆様の声に耳を傾け国・府・市の連携を図れる信頼関係を繋ぎ、今後更なる発展のために身を尽くして参る所存です。



京都市会
森田守 先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、世界に誇る日本の伝統や文化を後世に正しく伝えるため、神道の精神に基づいて、さまざまな運動に取り組んでおられますことに心より敬意と感謝を申し上げます。

私の地元右京区西院には、天長十年（八三三年）、淳和天皇が退位され、淳和院離宮にお移りになった際に、その鎮守社として創建された西院春日神社があり、私も奉賛会の理事として、春日祭をはじめとした年中行事にご奉仕させていただいております。

近年、ライフスタイルや価値観の多様化、単身世帯の増加などを背景として、つながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっております。古来、神社は信仰の対象だけでなく、地域コミュニティの核として機能してきた歴史があり、地域コミュニティの維持・発展に大きな役割を担ってこられました。今後も、地域コミュニティの中心的な存在として、地域住民同士が触れ合う機会の創出に大きなお力を賜りますようお願い申し上げます。

自由民主党は結党以来、「憲法の自主的改正」を「党の使命」に掲げてきました。国民自らが憲法について議論し、必要な改正を行うことで、時代に即した新しい憲法、新たな国の形を国民自身の手で創り出さなければなりません。自主的な憲法改正の実現に向け、私も自民党の地方議員として微力ではありますが、引き続き努力して参ります。

結びにあたり、神道政治連盟京都府本部の今後益々のご発展と、貴連盟の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。

令和6年

- 7月13日 教化委員会並びに関係団体代表者懇話会 大垣副本部長・藤森幹事長出席〈於 京都府神社会館〉
- 7月20日 丹波五支部連合会総会 後藤副本部長出席〈於 道の駅 和〉
- 7月22日 第37回会員大会 190名出席〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
- ” 清政76号発行
- 7月27日 綴喜支部総会 梶副本部長出席〈於 魚為〉
- 8月7日 京都市上支部総会並び総代会総会 室川副本部長出席〈於 京都プライトンホテル〉
- 8月9日 神道政治連盟役員会 梶副本部長出席〈於 神社本庁〉
- 8月15日 戦歿者追悼中央国民集会・靖國神社参拝〈於 靖國神社〉
- 8月21日 丹後六支部連合会総会 梶副本部長出席〈於 舞鶴グランドホテル〉
- 8月25日 中支部総代会総会 室川副本部長〈於 金刀比羅神社〉
- 9月5日 監査委員会 梶副本部長以下10名出席〈於 八坂神社常磐新殿〉
- ” 役員会23名出席〈於 八坂神社常磐新殿〉
- 9月7日 山城四支部連合会総会設立50周年記念大会 後藤副本部長出席〈於 ホテル京都エミナース〉
- 9月14日 衆議院議員田中英之君と共に語る集い 大垣副本部長出席〈於 京都プライトンホテル〉
- 9月19日 勝目やすし衆議院議員政経セミナー 大垣副本部長出席〈於 京都国際会館〉
- 9月21日 西田昌司参議院議員政経パーティー 藤森幹事長以下3名出席〈於 ANA クラウンプラザホテル〉
- 9月23日 吉井章参議院議員政経セミナー 室川副本部長出席〈於 ホテルグランヴィア京都〉
- 9月26日 第53回 交通慰霊祭 関係者参列〈於 西陣織会館〉
- ” 神政連近畿地区協議会事務引継ぎ並び近畿地区参議院議員選挙対策会議9名〈於 おかもと紅梅庵〉
- 10月2日 京都府神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭 関係者参列〈於 京都府神社会館〉
- ” 第34回神宮大麻暦頒布増強推進懇話会 関係者出席〈於 京都府神社会館〉
- ” 令和6年第2回定例代議員会 58名出席〈於 京都府神社会館〉
- ” 神道政治連盟 全国選挙対策委員会 小松副幹事長出席〈於 神社本庁〉
- 10月15日 第50回衆議院議員総選挙公示 候補者6名に推薦書交付
選挙期間中 各候補決起集会並び演説会へ各位出向
- 10月21日 第30回全国戦歿学徒追悼祭 室川副本部長参列〈於 若人の広場〉
- 10月25日 第50回神職大会 梶副本部長出席〈於 京都プライトンホテル〉
- 10月27日 第50回衆議院議員総選挙 投票日
- 10月28日 第50回衆議院議員総選挙 当選者へ祝電打電
- 10月28日 乙訓支部神宮大麻暦頒布始奉告祭並び総代会総会 室川副本部長参列〈於 向日神社〉
- ” 綴喜支部総代会総会 梶副本部長出席〈於 湯村温泉 佳泉郷井づつや〉
- 11月17日 京都府神社庁新嘗祭 関係者参列〈於 京都府神社会館〉
- ” 京都府神社庁事務連絡会 関係者参列〈於 京都府神社会館〉
- 11月24日 京都市会議員桜井泰広君と左京区の未来を創る会総会 室川副本部長出席〈於 ザ・プリンス京都宝ヶ池〉
- 11月27日 京都府戦没英霊追悼慰霊祭〈於 西陣織会館〉
時局講演会 講師：元安倍内閣官房参与 谷口智彦先生
演題：安倍総理と英霊 なき宰相はどんな日本を作りたかったか
- ” 清政77号発行
- 11月29日 洛北支部総代会総会 室川副本部長出席〈於 京都プライトンホテル〉

表紙写真「お印」の紹介

皇族方の「お印」は「御印章」ともいい、皇族お一人おひとりの身の回りの品々を区別するために、目印として付けられる、いわばシンボルマークのようなもので、男性は樹木、女性は花の中から選ばれることが多いですが、上皇陛下のように漢字が選ばれる事もあります。

今号は秋篠宮皇嗣殿下の「^{ツガ}梅」です。「梅」は日本固有の種で、マツ科ツガ族の常緑針葉樹です。

「ツガ」の意味としては、細かな葉が次々に展開していくことを意味する「継ぐ」、あるいは、長短の葉が継ぎ合うように生じる様子を表す「つがう」が転化して「ツガ」と命名されたとの説が有力です。

万世一系の皇統を継承せらるる皇室にとって、誠に相応しく美しいお印であります。

時事一滴

副幹事長 神山 貴

幼少の頃の記憶に、三河の田舎神主を自称した祖父は、「神主は帚と筆を持って」を口癖とし、祭の直会では日本の現状を憂い、あるべき姿を懇々と語った。年賀状の文面といえは細かな文字で延々と時事問題について書き記し、田中角栄を真っ向から批判した。何よりも夙に自主憲法制定に全身全霊を傾けていた。今知る人はいないであろうが、藤山一郎が歌った「天皇様ありがとつ」という歌が組織で作られ、子供乍らに君が代と共に歌った覚えがある。

十年ひと昔と云うが、時既に五十年が過ぎた。憲法改正の議論も当時と比較するとかかなり異なった様子を呈しているのかも知れない。

本年は元日早々に能登半島沖を震源とする地震、翌二日の飛行機の衝突炎上事故。異常な年の始まりとなった。近年の自然災害の多さに驚く中、南海トラフ地震の警戒まであり、追い打ちをかけるかの如く、能登半島の水害。被災された方の「神も仏もない」の言葉に心を痛めるばかりである。

安倍元首相が凶弾に倒れてより、政治と宗教・政治と金の問題、そして突然の岸田総理の退陣に伴い石破総理の誕生となった今、憲法改正・自主憲法の制定のよいきっかけになることを期待したい。当本部においても、皇室の尊厳護持、憲法改正をはじめとした諸施策の推進に信念をもって、先人の志を受け継ぎ実現してまいりたく思う。しかしながら政治関連の報道には不安要因ばかりが目につくこの頃である。



神道政治連盟京都府本部会報

清政 第77号

発行日：令和6年11月27日
発行所：神道政治連盟京都府本部
〒616-0022
京都市西京区嵐山朝月町 68-8
電話 075-863-6677
編集協力：テンセイ・コモンズ
表紙写真：秋篠宮皇嗣殿下のお印
「梅(ツガ)」